

例会のお知らせ(1)

2月の例会

数値予報, 長期予報, 気象統計, および気候

日時 2月12日(木) 9~17時

場所 気象庁第一会議室

シンポジウム (9~12時)

ルーチンに用いられる数値予報のモデルの説明と電子計算機の今後の運用について

座長: 正野重方(東大)

1. 村上多喜雄(気研): A.D.P. について(15分)
2. 藤原滋水(予報): 一般予報について(15分)
3. 岸保勘三郎(気研): J.N.W.P. から帰って(30分)
4. 増田善信(気研): 台風予報(15分)
5. 菊池幸雄(長期予報): 長期予報(15分)
6. 討論「I. B. M. 704 の今後の運用について」

見学: 気象庁 I. B. M. 704.

一般研究発表(13~17時)

座長: 内海徳太郎(仙台管区)

1. 鈴木栄一(気研): 直交変換による降水分布の解析(10分)
台風による降水量の地理的分布を表現する一方法として Component analysis による第1主成分を Centroid

method で摘出した結果を昨秋の学会で発表したが、今回は iteration method で正確に第1, 第2成分を計算し、その気象学的意味をしらべた。

2. 鈴木栄一(気研): 再来期間に関する一つの問題(5分)

極値の再来期間の計算は降水量で重要な問題であるが、ここでは期間のとり方をかえた場合、および将来資料の追加があった場合の期待される極値の公式を導き、それを実例によってたしかめてみた。

3. 安藤正次(仙台管区) 渡辺正雄(気研予): 準定常現象の予報因子について(20分)
4. 八重堅佐平(仙台管区): 大気環流における準定常波の周期的変動について(20分)

5. 曲田光夫(気研): 渦度方程式の統計的吟味(15分)
500mbの日々の資料を用い、順圧渦度方程式を線型部と非線型部に分けて統計的にどのような形で成立つかを検討した。その結果に基づいて半旬予報に適した定差方程式を導いてみた。

気象測器と観測法 (29頁参照)

3月の例会

第8回“航空気象”のシンポジウム

(日本航空学会と共催)

日時: 昭和34年3月18日(水) 午後1時より

場所: 東京国際空港会議室

主題: 高々度気象解析について

講演申込

締切: 昭和34年1月31日

宛先: 東京都大田区東京国際空港内

東京航空地方気象台 上松 清

4月の例会……休み

5月は総会および大会(東京)

講演申込締切: 昭和34年3月31日